

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000246		
法人名	社会福祉法人池田さつき会		
事業所名	グループホームポプラ豊中南 (1)		
所在地	大阪府豊中市大島町1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成24年 3月10日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当グループホームは、「生活者様自ら営む普通の生活」を目標として運営しています。生活者様が施設に入居され、これまでの生活が変化する中、行える部分については以前の生活観や生活リズムを十分に生かしていただき生活を行っていただくことを基本に考え、何気ない日常のなかにある非日常が特別な日となるよう勤め、生活者様お一人お一人にとっての歴史作りに貢献したいと考えております。</p> <p>地域の方との交流は、地域の祭り、運動会、防災訓練などへの参加を行うほか、地域の婦人部や自治会の方の協力でイベントの実施を行い、近隣の保育所との交流で、双方が散歩などの際に気軽に立ち寄れる関係を築かせて頂いています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年 3月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して1年半、管理者をはじめ多くの当初からの職員が、自然体でのケアで利用者の日常を支援している。ホームとしての歴史は浅いが、職員のひとり一人が培ってきた介護経験と介護への思いが、管理者のマネジメントと調和して、利用者がそれぞれの時間と生活を穏やかに、和やかに過ごし、家族の安心をより強く、深くしていくことを期待できる。法人の持つ各種事業所との連携・協力による各種行事や地域社会への融合と支援は、当ホームとホームに在る利用者への理解と強い味方となることであろう。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本としたグループホーム目標を設定し、具体化するための3項目をケアの基本としています。この項目は、職員室内に掲示し、常にスタッフが確認できるよう勤めています。	目標3項目の一つにある「生活者自身が行う普通の生活」が、地域にあることを当たり前とし、地域との支えあいのなかで、共に日々の支援を行いたいとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会加入を行い、地域の秋祭り、運動会、防災訓練などに積極的に参加するほか、近隣保育所との交流において、互いに散歩の際などには気軽に立ち寄り、高齢者・園児の交流を深めることで、通園児などに声を掛け合う状況が生まれる。	設立して1年半、散歩・買い物での近隣住民との挨拶から始まった地域交流は、様々な地域行事への参加に発展し、法人併設各事業所との連携・協力も得て地域との関係をより深めたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回「地域交流会」を実施し、併設事業所、隣接事業所協力のもと、地域の方へ介護予防運動や楽しみとしてのカラオケなどの実施を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	当施設の生活者へのサービス向上と、生活者が地域の一員として生活できることを推進するため、地域、近隣に住まいされている方の意見収集の拡大を図ることを進めて行くほか、ご家族からの要望をサービス向上を図る。	設立後、1回のみで開催である。家族への参加要請と地域住民への参加呼びかけを課題としている。	運営推進会議をホーム運営の理解と共感を得る絶好の場としたいと言う認識の下、重層的な構成員の拡充に向けてのより積極的な取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を求めるほか、運営等に関する質問事項について連絡・訪問を行い、適正運営を図る。また、月1回の介護相談員の訪問を受けるほか、当施設の行事等にも参加いただいている。	通常の事務的連絡等を通じて、適宜・適正な関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、日常から職員に徹底を行うほか、DVD資料を用いた研修を行い日常のケアに生かす取り組みを行う。	身体だけでなく、言葉かけや慌ただしい言動等による心的拘束についても理解を促し、注意深くケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する法人内研修に参加し、虐待防止について学び、当施設における虐待行為の発生がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設生活者にも成年後見制度を活用されている方がおられるなか、担当の後見人からの情報収集などを行い、職員間で情報の共有を行い、制度について理解が深まるよう努める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設側からの一方的行為ではなく、書面を用い説明を行い、質問事項についても求める方法で、不安・疑問がないよう努めている。 また、解約は、本人・家族からの届出を受ける状況であり、当方からの申し出は同意を頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常において本人・家族からの要望には応じる方向で進めているほか、質問箱を設置し、随時意見がいただけるよう配慮を行っている。 また、家族懇親会の実施も行き、意見の収集に努めている。	5月・11月の衣替えの期に、昼食を共にする家族懇親会で忌憚のない意見を聴く、面会時や家族と過ごす誕生会などの機会を逃さずに、意見要望を聴く努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議を行うほか、日常の相談・報告・連絡を行い、運営に反映させている。 基本的姿勢として、職員が主体として運営し、生活者が幸せと感じる介護を推進している。	意見や提案は、「まずやってみる」こと、その過程での課題を利用者中心に考察し検討して、日常業務や運営に反映させるとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ・リーダー・管理者別に法人における職務評価表を作成し、公平な評価を行い、各人の職務に対するモチベーションの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修への参加、他事業所への体験実習、グループ研究取り組みと発表など行うほか、当施設独自での研修実施を行い、スタッフ一人一人の資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会を通じた事業所との連携を図る。 また、他市同系事業所との交流を行う。 地域包括センターとの交流により、セミナー開催を共同で行うなどの取り組みを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安な状況で入居される本人に対し、コミュニケーション場面の強化を行い、自己所在が可能である旨安心していただける環境であることを感じていただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に際し、施設での生活、方針などを理解していただき、本人の状況に十分対応させていただける点や、施設・家族双方が持つ意見などを交換できる旨を伝え、生活者の生活支援に不安がないことを理解していただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時における情報をスタッフ間で共有し、これまでの生活面を理解しながら本人と接し、本人や家族が求めるサービス提供を行い、必要に応じたのサービス利用の検討を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設では、生活者とともに生きるということを推奨しているところから、自分で出来る行為については行っていただき、共存の関係でケアを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては、職員と共にケアを行う一員として理解を求めるなか、施設で食事を摂り、家族に関係ある生活者だけでなく、他の生活者も共にあるものと理解し接していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出などを通し、以前からのなじみの場所や、なじみの人との会いを行うほか、近隣の方々へは来訪を願うなどの取り組みを行っている。	馴染みの人や場所だけでなく、馴染みの習慣も大事にして、普通の生活が普通に維持できるよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相互扶助的な関係で、生活状況が低下した生活者を支援する関係、好みの活動が同じである生活者同士の交流などを日常生活場面だけでなく外出行事なども考慮し生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される際に、気軽に立ち寄っていただけるよう伝えと共に、相談事項についても支援させていただくよう伝えている。 施設イベントへの参加連絡も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的には本人の要望・希望は即時実行に勤めているが、適わない部分については時期日時を検討し実現を行うこととしている。 さらには、代替なども積極的に検討し、本人にアプローチを行っている。	「横に座って話をする」中で、生活歴や社会歴からのひとり一人への気づきを疎かにしない、家族からの情報を活かすなど努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・知人に対しての聞き取りを行い、記録の蓄積を行ない、変化する本人の状況に合わせケアの変更を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者を設け、一人一人の生活状態、身体状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を優先する中、生活において必要な部分が出来ると出来ないの判断を専門的な視点から観察し、生活活動が行える部分の拡大を思慮しながら、計画の検討と策定を行う。	「普通の生活」の視点から、個々人に合わせたカンファレンスを行い、介護支援専門員が中心に計画を作成し、状態変化に応じた見直しを行っている。	基本的介護計画を理解した日常のケアと、そこから生じる様々な気づきを、職員と家族が共有する中での介護計画の作成と見直しを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録だけでなく、情報の共有のため口頭、申し送り簿両面から行い、本人状態の共有を行い、必要に応じケア計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族からの申し出や、スタッフからのアイデアなどを検討し、柔軟な考えで対応し、施設であるという閉鎖的な考えを持たずに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域保育所との交流で、改まった関係ではなく日常生活の中での関係を構築しているほか、施設周辺の店舗経営者などとも関係を持ち、生活者の活動を理解し支援を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月2回の訪問診療を受診する中、常に生活者個人の体調相談を行い、必要な医療についてのアドバイスをいただき、家族協議の上必要な医療の受診を行っている。 X線・CT検査などは、医療機関の送迎がある。	協力病院との連携のほか、24時間対応可の医師と看護師、薬剤師の応援・協力を得ており、健康管理について不安はない。家族付添いの通院が出来ない場合は職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	オンコール24時間体制で、相談受付を行っており、必要に応じ訪問し、適切な判断、医師との相談を行っていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリー・介護サマリーの交換を行い、情報の共有を行うほか、家族同伴で医師よりの診断報告を可能な限り聴取させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合についての対応は、家族の意向を優先検討課題とし、医師との相談やカンファレンスなどで、継続入居が可能か否かを検討する。 なお、不可能と判断された場合においては、当事業所関連の容易に医療受診が可能な事業所への転居支援を行う。	当ホームでは、普通の生活維持を目的とし、持続した医療的行為ができないことを前提に、終末期ケアは行わないとしている。しかし、今後、老衰死や家族の強い要望については検討課題としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全員の職員は、消防署が行う普通救命講習を受講しており、消防署から市民救命サーポーターの事業所として認定されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に参加するほか、事業所においてもスタッフに対しての指導と、訓練を実施している。	構造上、ベランダへの一時避難が出来ない状況にある。また、利用者全員を避難誘導する実施訓練が不十分である。	階段を使用する避難訓練の繰り返しが必要であり、夜間想定の実施訓練、または避難シミュレーションを望む。備蓄の充実の検討を勧める。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれの個性での声かけを行っているので、統一が出来ている訳ではないが、声かけにより生活者様の人格を傷つける事が無い対応をしている。	普通の生活での普通の会話で対応するが、年長者への尊敬と親しさ・押れの峻別については理解を深め、日常の気づきにはお互いが注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が共に過ごす時間が多くあるので、こちらから声かけをし、何かを一緒にしたり、話をする中で本人の要望等も会話の中から、拾い出し確認し実行するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に生活者様を巻き込まないように、日々の生活を送る様にしている。業務優先で生活者様の要望、訴えを後回しにしないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、提携理美容を利用して頂いたり、外部理美容利用の方は、近隣理美容まで付き添い利用していただいている。行事等の時に化粧して貰ったり、着付け等も楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、職員と一緒に食事の盛り付けや洗いものをして頂いている。外食をしたりして、楽しんで頂いている。	委託業者からの配食を利用するが、日曜日とご飯と汁物はユニットで調理している。過度な食事介助はせず、見守りのなかでゆっくりした摂食を促している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度の体重測定を実施し、体重の増加、減少に注意し、必要に応じて、食事量の調整をし、水分も一度にではなく、こまめに数回にわけて摂取して頂くようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、嚥下状態が低下している、生活者様には、食事前の口腔内の刺激を高めるマッサージの実施。義歯の方は、夕食後、義歯を外して頂き消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の残存機能を活かし、トイレでの排泄を行って貰う為に、声かけや誘導をし失敗がある方は、その方の排泄リズムを掴んで、トイレ誘導行い、おむつやパットは極力使用しない様にしている。	排泄パターンを十分に把握しての、行き届いたトイレ誘導と丁寧な失禁対応がみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を兼ねて、散歩に出かけたり、リビングを歩いて頂いたりしている。便秘気味の方に関しては、水分の強化やトイレでの腹部マッサージ、腹部の温めを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日の設定、時間の設定は特に設けておらず、生活者様の要望に応じたり、職員からの声かけを行い、最低限度として週に2回の入浴をして頂いている。	毎日の入浴、夕食後の入浴、工夫した言葉かけでの入浴誘導など、適切な支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の思うように、過ごして頂いているが、日中は居室では無く、出来るだけリビングに出てきて頂き状態把握すると共に活動を促し、昼夜逆転にならない様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明書をケースに綴り、職員も目を通し確認するようにしている。服用の際は、誤薬が無いように、本人の隣に座り、飲みこみ確認するまで離れない様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや洗濯、屋上の花の水やり、野菜作り等の役割を持って頂いている。パズルや塗り絵、カラオケ等の気分転換の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの神社に散歩に行ったり、近隣の保育所に出かけたりしている。又、時々、近隣のコンビニにおやつを買いに行ったり、花見等、車での外出をしている。	定時・定型的な外出ではなく、一人ひとりの状態・意向に沿った外出(遠近を問わず)支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭の所持、保管は行っておらず、家族様了承の上、施設での立て替えを行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が掛ってきたときの、取り次ぎを行ったり、年賀状を職員と一緒に作成したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節ごとの花を置いたり、季節に応じた装飾品を飾ったりして、四季を感じて頂くようにしている。リビングに加湿器を設置し乾燥の防止し努めている。	採光・通風ともに配慮された空間である。少ない壁面にも工夫された装飾があるが、畳敷きのあるコーナーは、その良さが十分に活かされていないのが惜しい。	畳の感触と寛ぎの感覚を活かした、利用者の笑顔が行き来するホットコーナーになることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に、畳やソファを置くことで、家に近い空間を作り、ゆったりと過ごして頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みの家具等に、特に制限が無い為、生活者様の使い慣れた家具等を持って来て頂き使用して頂いている。	本人と家族の思いがそれぞれの設えとなっており、1年半という生活の居心地の良さがつたわる居室風景である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビング、トイレ、浴室に手すりを設置する事により、「安心、安全」を確保しながら自立した生活が送れる様に支援している。居室に表札を付ける事で、自身の居室を理解して頂いている。		